

生活困窮者学習支援事業について

資料4

保健福祉部 生活支援課 第1回総合教育会議 令和元年5月20日

1

1 事業目的

- (1) 目的 生活に困窮する世帯等に対し、学習支援や学習の場所・機会の提供などを通じ、高等学校等への進学及び卒業を支援することで、子どもの社会的自立を促し、貧困の連鎖を防止する。
- (2) 対象者 生活保護世帯及び※生活困窮世帯の小・中学生
及び高校生(高校生世代)

※生活困窮者自立支援法に基づく支援調整会議で決定された者

(3) 内容



- (1)学習支援・・・対象者に対する学習の支援
- (2)進学支援・・・対象者や保護者に対する進学に関する助言
- (3)修学支援・・・対象者や保護者に対する学習の重要性の理解を促す助言。 養育環境に課題がある場合は、まいさぽ長野市、関係機関と連携し、環境の改善を図る。

- (4) 形態 施設型・・・施設の会議室等を利用し、複数人を対象に講義を実施
派遣型・・・自宅などに派遣し、個別指導を実施
(施設型の利用が困難な生徒等を対象)

2 平成28～30年度の状況

(1) 実施状況

2

	平成28年度 (事業開始)	平成29年度	平成30年度
受講者数 (申込み者数)	小学生9人 中学生15人 高校生0人 合計24人(生保20/困窮4)	小学生15人 中学生12人 高校生4人 合計31人(生保24人/困窮7人) (内訳) 継続19人 新規12人	小学生23人 中学生20人 高校生8人 合計51人(生保38人/困窮13人) (内訳) 継続18人 新規33人
施設型	6人(生保5人/困窮1人)	7人(生保4人/困窮3人)	4人(生保3人/困窮1人)
派遣型	18人(生保15人/困窮3人)	24人(生保20人/困窮4人)	47人(生保35人/困窮12人)
実績	906千円(国庫補助1/2)	1,932千円(国庫補助1/2)	3,527千円(国庫補助1/2)
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人プロ家庭教師のネットワークI WILL ・公益社団法人 長野シルバー人材センター 		

(2) 学習支援の実施状況の声(アンケート等から)

◆申込みの状況から

- 塾に通わせる経済的な余裕がなかった。
- 高校受験を控え、勉強に集中できる場所を探していた。
- 保護者や子どもの関心が低く、断られた。
- ひきこもりで本人に案内できる状態でなく、親も希望していなかった。



◆学習の成果

- 以前より集中力がアップし、力がついてきた感じがする。
- 「こんなに楽しそうに勉強しているのを初めて見た」(保護者より)
- 苦手な教科の学力がついて学校のテストの得点も上昇した。
- 教科書の問題もよく解け、進学して保育士の資格をとりたい。
- やる気に結びつかず、変化が見られない様子。

3 平成30年度までの状況

◇働きかけの強化

①生活保護ケースワーカー等による働きかけ

特別な理由を除き、被保護世帯への一斉周知を行うとともに、個別の働きかけを行う

②広報活動の強化

・周知用チラシに受講者の声を掲載し、カラーで印刷するなどの工夫を行う

・まいさぽ長野市(生活・経済的な悩みの相談窓口)の周知・PR

◇まいさぽ長野市で実施している家計相談支援事業からの効果的なアプローチ

◇学校、SSW(スクールソーシャルワーカー)との連携

◇高校進学後も学習支援を希望する子どもたちへの支援

4 課題と今後の方向性

課題

- ・子どもの学習に関心が低い家庭環境、保護者への対策
- ・生活困窮で支援を要している方は、まいさぽ長野市へ相談をしてもらえるよう必要な方への適切なPRと関係機関との円滑な連携

平成28年度の事業開始から3年間、申込者、受講者ともに増加。
今後も、貧困の連鎖を防ぐため、継続的に支援していく。

今後の方向性

- ・生活保護ケースワーカーの働きかけによる早期支援の取組を強化する
- ・学習習慣の習得を目指し、小学生世代(新入学児童含む)家庭における子どもの学習、学習環境に対する関心を高めるための支援を強化する
- ・学習支援は、高等学校進学を控えた中学2・3年生を重点的に行うとともに、高等学校進学後も継続し支援を行う
- ・高校生世代についても、高等学校を中退することがないように、支援を行う
- ・学校、SSW（スクールソーシャルワーカー）などとの連携を深める

平成31年度事業費及び見直し事項

- ・事業費(予算) 6,450千円(国庫補助1/2)
- ・早期支援の取組みとして、6月上旬(前年度7月1日発送)に一斉周知を行い、ケースワーカーによる個別の働きかけを行う。
- ・生活困窮で支援を要している方が「まいさぽ長野市」へ相談してもらえるよう、新たに作成する名刺サイズのチラシを利用し、長野市の関係部門やSSW等と連携を図りながら円滑な支援につなげる。